



絵灯ろう・日本画 の普及・発展

いし かわ みつ こ
石 川 巳津子

(本名 ^{いしかわ} 石川 ミツ)

(89歳)

住 所 湯沢市

約70年間にわたり湯沢市の伝統文化である「絵灯ろう」制作の第一人者として活躍し、多くのメディアに取り上げられているほか、絵灯ろう講習会を開催し、自ら講師となって後進の育成に努めるなど、絵灯ろうの普及に尽力した。

昭和49年には、減少傾向にあった後継者の育成のため、絵灯ろう保存会を設立し、会長として文化の保存に尽力した。これにより、絵師間の技術の交換と研鑽が生まれ、絵灯ろうの優美さが増したことで、毎年開催される「七夕絵どうろうまつり」に県内外から多くの観光客を集めた。

平成8年にハンガリー共和国（現 ハンガリー）で開催されたジャパンウィークにおいて、氏の制作した絵灯ろうが本県を代表する文化として展示されるなど、本県文化の振興に貢献した。



教育支援の充実

あ べ かつ ゆき
阿 部 勝 行

(89歳)

住 所 横手市

アラビアの石油開発などで活躍された大森町（現 横手市大森町）出身の実業家、故山下太郎氏の御遺族の寄附により「山下太郎顕彰育英会」を設立し、広い視野に立って地域に貢献する人材育成を目指して、本県全域に給付対象を広げるとともに、健全財政を維持するなど、優れた運営手腕を発揮している。

また、奨学生が、将来にわたり互いに交流を深めながら地域貢献活動が可能となるよう、奨学生のOB会「雄飛会」の設立を発案し、現役奨学生を含めた交流会を開催し、進路について相談する機会を設けるなど、奨学生への支援を行い、本県の人材育成に貢献した。

本県出身又は県内の研究機関に所属する若手研究者の優れた研究に対し、「山下太郎学術研究奨励賞」を授与し、その研究を支援するなど、国内はもとより、海外でも活躍する研究者の育成に尽力した。



演劇の普及・発展

たか ぎ とよ へい
高 木 豊 平

(82歳)

住 所 鹿角市

昭和49年から23年にわたり、高校演劇部の顧問として演劇に携わり、自身の創作脚本により、東北大会に多数出場するとともに、全国高等学校演劇協議会顧問、秋田県演劇団体連盟顧問、秋田県芸術文化協会副会長を務めるなど、演劇と文化の発展に貢献した。

鹿角市の市民劇団「演劇を楽しむ会」の公演において、毎年、市民より出演者を募集し、舞台に立つ機会を設けるなど、演劇を身近なものにするよう努め、地域における演劇の普及に寄与した。

平成16年から平成25年まで、小坂町の康楽館での「北の演劇祭」に実行委員として関わり、北東北三県の高校演劇とアマチュア演劇の上演に尽力した。

高校演劇、地域演劇に多くの脚本を執筆し、後進の指導と育成に努めるなど、精力的に演劇活動を続けており、地域に立脚した氏の戯曲は、観客を楽しませるとともに「失ってはならない人間性」を感じさせるものである。



地域医療の向上

おお さと ゆう いち
大 里 祐 一

(81歳)

住 所 鹿角市

本県における医療従事者の代表として、乳幼児の医療費無料化の対象範囲拡大や、骨髄移植のドナー登録者の拡大など、数多くの課題にライフワークとして取り組み、その実現に尽力した。

昭和59年より秋田県医師会理事として、学校医の手引書の発行や日本医師会学校保健モデル事業に携わるとともに、平成10年より秋田県医師会代議員会議長として、代議員会の秩序保持と会議の統理を担っている。

平成8年から15年間、秋田県病院協会会長を務め、医師、看護師不足の問題に取り組むとともに、地域医療の崩壊を阻止するため、病院の役割を充実させるなど、医療体制の強化に貢献した。

平成12年より鹿角市鹿角郡医師会会長として、へき地診療と超高齢化が進んでいる現状において、全ての人々が安心して医療が受けられるように医療圏の体制を整備し、各種健診や予防接種など、病院と診療所が役割、機能を分担し、住民のために病診連携に努めるなど、地域医療の充実に寄与した。



スポーツの振興・発展

か とう ひろ し
加 藤 廣 志

(80歳)

住 所 能代市

全国大会で優勝経験がなかった能代工業高校を、昭和42年の埼玉国体で初優勝に導いたほか、昭和50年に初めて、国体、インターハイ、選抜大会の三冠を獲得するなど、「高校バスケの王者」として、全国に能代工業高校の名を広め、常勝軍団の礎を築き、監督在任期間30年間で全国優勝33回、その内三冠を5回、インターハイ7連覇の前人未到の偉業を成し遂げた。

指導を受けた選手は日本の中心プレーヤーとして活躍しており、その指導法は、元日本代表監督やBリーグといったトップリーグの監督などの教え子達に連綿と受け継がれ、「バスケットボール王国秋田」を牽引するなど、本県のスポーツ振興に貢献した。

秋田県体育協会の常任顧問、副会長を務め、平成19年秋田わか杉国体の競技力向上対策副本部長として競技力強化に尽力し、バスケットボール競技の総合優勝、天皇杯獲得に寄与するとともに、秋田県バスケットボール協会副会長、会長として、本県バスケットボールの普及と強化に尽力した。



芸術文化の振興・発展

あお き りゅう きち
青 木 隆 吉

(79歳)

住 所 秋田市

長年にわたり、県内大学などの教育現場においてデザインの指導に精力的に取り組む、生徒、学生に二科展など公募展に多数入選させるなど、美術教育の振興に貢献するとともに、自身も二科展会員、審査員として県内デザイン界をリードしてきた。

平成19年秋田わか杉国体では、シンボルマーク及びマスコットなどを担当し、国体の成功に寄与するとともに、秋田県立大学など、県内小中高大学の校章デザインや公的シンボルマークを多数制作しており、その優れた技術力、デザイン感覚は高く評価されている。

美術教育者、デザイナーとしての経験から、様々な芸術分野に造詣が深く、秋田県デザイン協会会長など各種文化団体の長を歴任し、県内の芸術文化の振興に携わってきた。

平成25年からは県内の芸術文化団体を束ねる秋田県芸術文化協会会長を務め、同協会の組織強化、会員の意識向上を図るなど、本県の芸術文化の発展に大きく貢献している。



地域経済の振興・発展

さ さ き しげ じ
佐々木 繁 治

(71歳)

住 所 大仙市

全国花火競技大会「大曲の花火」実行委員会の委員長を務め、日本で最高峰の花火競技大会として、その基盤構築に取り組むとともに、「安心・安全な大会」として運営し、人口約4万人の大曲地域に約74万人の観客を呼び込み、県内外の宿泊施設、飲食店など幅広い業種に経済効果をもたらしたほか、大仙市のみならず、本県の観光振興、地域経済活性化に貢献した。

平成29年に開催した第16回国際花火シンポジウム「大曲の花火 春の章」においては実行委員長として奔走し、世界に向け「大曲の花火」を発信したことで、各国の参加者から賞賛され、大仙市で初めて花火関係者による国際会議を成功させるなど、インバウンド観光の振興に貢献した。

また、大曲商工会議所副会頭、会頭を務め、地元産業界の発展、商工会議所活動の伸展と円滑な運営、社会的信用と地位の向上に尽力した。